

平成 27 年 4 月

語り部：竹内 よし子

今日は、みなさん一人一人と、モザンビークという国を通じで平和について考えていきたい。

『平和』とは

- ・どんな色をイメージするか児童に問いかける。

生徒より

黄色→みんなが元気で明るい色

緑→仲良くしていて草原みたい

水色→空の色をイメージした。世界中と空は繋がっているから

黄色→お米の色をイメージした
と声上がる。

- ・次にどんな形をイメージするか生徒に問いかける。

→丸、長方形と声上がる。

平和の反対というと、戦争である。また、暴力や貧困、格差も挙げられる。

『平和』にはどんな意味があるか、字について説明。アジアの農耕民族から生まれたと言われている。

『平』は、みんなが平等なイメージで『和』は、のぎへんは穀物、口は食べる事を表し、みんながちゃんとごはんを食べられることを指す。

『今、世界で起こっていること』

- ・ 2100年には、地球の平均気温が4.8℃上昇すると言われている。3.6℃上昇すると、ブナ林（＝森のダム）の生息域が大幅に減ってしまう。
- ・ 1日に小豆島の1.7倍くらいの面積の農地や牧草地が砂漠化している。昔は1つ分だったのに、1.7倍に増えた。砂漠化により食べ物が無くなる。牛や羊の食べ物も無くなる。
- ・ 1日に200種類の生物が絶滅している。私も護国神社の近くの大川でメダカを調べたがいなかった。外来種がいた。童謡でおなじみのアイアイも居なくなっている。
- ・ 1日に4万人が空腹で餓死している。しかし、新聞上に掲載されていない。なぜだろう？毎日の事で書ききれない為記事にはなっていない。
- ・ 1日あたりの所得が1.25ドル以下という貧困人口が12億人もいる。2ドル以下の暮らしをしている人は30億人。アフリカのモザンビークでは、1ドル以下の暮らしをしている人が全体の半数以上いると言われている。
- ・ 1日に軍事費として4,857億円使われている。戦争で怪我をしたりする費用も含まれてはいるが、ミサイルや核開発に使われている。

- ・世界の戦場で戦う子供兵が30万人いると言われている。そのうちの1/3が女の子。戦争で使う物を洗ったりしている。モザンビークでも戦争をしていたが、20年前に戦争は終わった。子供兵だった人たちが大人になっても、苦しんでいる。
- ・15秒に1人の子供はエイズが原因で親を失っている。
- ・小学校に通うべき年齢にありながら、通うことができない子供が6,100万人いる。前は1億2800万人だった。いろんな人の努力によって改善されてきている。
- ・人口比20%の先進国が地球資源の50%を使い、残り80%の国々で50%の資源を分け合っている。私たちが着ている服は石油製品で出来ている。少しでも節約して、少しでもそういった人達に分けてあげられたらいいと思う。

講師の活動している『モザンビーク』の説明

今、みんなが食べているエビ、ごま、まぐろなどはモザンビークから輸入しているものも多い。織田信長の家来にモザンビーク人がいたと南蛮屏風に描かれている。

世界中で国旗の中に銃があるのは、モザンビークだけである。早く国旗から銃が無くなればいいと思う。1960年からポルトガルに支配されていて、戦争により独立した。独立した後も内戦があった。いつ何があるか分からないので、武器を隠し持っていた。自分たちが平和な国づくりをしたい・武器は無い方がいいとみんなが思い立った。

なので、モザンビークに対し、『銃から鋏（くわ）へ』の平和支援活動をしている。内容は、戦争で残った武器を自転車などと交換している。6年前に初めて愛媛にモザンビークの大統領が来た。

松山市には「放置自転車」の問題があった。モザンビークと松山市とのいろいろな問題を乗り越え、人と人、心と心でつながっていった。

具体的に『銃から鋏へ』とは

- ・モザンビークの武器と松山市の放置自転車を交換
- ・モザンビークの武器はほとんど爆破処理
- ・モザンビークでは自転車があると便利。学校まで10キロから20キロも歩いて通学する子供もいたので、学校に自転車で行けるようになった。また、荷物が運べるようになった。
- ・自転車と交換された武器の約5%は武器アートに変わる。残りの95%は爆破処理する。

モザンビークで内戦があったころ、鉄の雨が降っていた。空が自由になった

ことが平和を象徴している武器アートを作った職人もいる。私たちは14年間『銃から鋏へ』の活動をしている。今までに、7回で約70台の自転車をモザンビークに送っている。

首都マプトは、近代化が進み、ヨーロッパのポルトガルのような街並みになっている。また、インフラ整備も進んでいる。村は首都マプトとは対照的である。私たちはボンドイア村と交流している。村の家は自分たちで建てている。とうもろこしも自分たちで作っているが、家畜に食べられないように上で作っている。自分たちで持続可能で循環可能な社会で生きている。私たちはスーパーで食料を買って食べるが、彼らは自然の中で食料を得ている。1日2回子供たちは、毎日10キロの道のりを通って、水を汲みに行っている。それでもみんな不満を言う人はいなかった。現地の子供たちは、水汲みするより学校に行くことが楽しい。子供たちも料理をするので、生活力がある。

アフリカでは井戸を掘るのも大変ある。アメリカは10メートル位掘れば水がでるが、アフリカは雨が降らないので、地下100メートルぐらいまで井戸を掘る。モザンビークでは、病気を運ぶマラリアの蚊が怖い。マラリアの蚊で死んでしまう人が多い。

モザンビークの道は荒れているところが多いので、自転車がよくパンクする。タイヤも縫って使っており、大事にしている。鉛筆も最後まで使い切る。

えひめグローバルネットワークの目指しているのは、銃をなくし、安全にすることだ。鋏や生活物資の支援を行い、貧困からの脱却を目指す。例えば、本を送ったり、自転車を直す工具を送ったりして、自分たちで生活ができるようにする。あらゆる人々が、人として平和に暮らせる持続可能な社会の実現を目指している。

生徒の感想（約5分）

Q：現在、争いをしている国はあるか？

A：モザンビークは今、争い事はしていないが、世界では紛争が起きている。

Q：モザンビーク以外で支援している国はあるか？

A：フィリピンや東ティモールの支援をしている。

Q：最近何を贈った？

A：野球道具を贈った。オリンピックで強い国は道具がそろっている。モザンビークは走る人が金メダルと銅メダルをとった。みんなにチャンスを与えたい。

Q：武器アートの武器は何？

A：世界中に出回ったものがある。ピストルなどいろんな武器で作られている。